

二〇二二年七月二日

司書のぼる細き梯子や書架涼し  
足爪に彩施して梅雨明くる  
梅雨深し昼ともし洩る学び舎に  
葉隠れにお化け胡瓜となりにけり  
母の歩に合せてくぐる茅の輪かな  
尼寺の徒ら賑やかに梅漬ける  
馬鈴薯の花の大地を鉏網線

むべ  
もとこ  
満天  
やよい  
うつき  
智恵子  
凡士

二〇二二年七月一日

一病の平癒願ひて笹飾る  
神木の太き上がり根苔の花  
合歓咲いて水辺の風に揺れやまず  
頑張ってきた七変化剪定す  
品書きは女将の筆や川床料理  
稲荷社の金の御幣や木下闇  
よくしゃべる電化製品梅雨籠  
木洩れ日の遊ぶ泉が水源地

やよい  
こすもす  
もとこ  
明日香  
宏虎  
うつき  
なつき  
せいじ

二〇二二年六月三〇日

船渡御の沖へ繰り出す太鼓の音  
五月晴雲つかむ手の太極拳  
龍神を祀る祠の苔涼し  
磊磊に堰かれて激つ溪涼し

たか子  
素秀  
せいじ  
せいじ

二〇二二年六月二九日

朝涼や湖風渡る遙拝所  
夏草や汲み上げポンプ錆しまま

隆松  
たかを

水琴窟青蔦つたふご神水

なつき

足生えし蝸蚪泥煙あげて逃ぐ  
夏草や訪ふ人もなき忠魂碑

なつき  
ぼんこ

二〇二二年六月二八日

浮き草を小突きて遊ぶ稚魚の群  
スキップしおませな仕草初浴衣  
遠雷や間遠に迫る雨柱  
太陽の塔がハグする夏野かな

智恵子  
みづき  
智恵子  
もとこ

二〇二二年六月二七日

門灯の守宮に留守を頼みけり  
自転車でめまとい突破川堤  
昼寝覚とんちんかんの返事して  
蓮咲くと聞きて散歩の道変ふる  
重なりし土囊の破れ草茂る  
青田風一陣吹きて水匂ふ

満天  
豊実  
明日香  
はく子  
せいじ  
宏虎

二〇二二年六月二六日

薄雲をいなして白き梅雨の望  
百人の体操揃ふ園涼し  
人影に四散素早き蝸蚪の群  
島の墓所ラジオラスの咲きのぼる

はく子  
あひる  
やよい  
なつき

毎日句会みのる選・二〇二二年七月四日